



2009年3月期 中間決算説明会

大平洋金属株式会社

2008年11月20日

ホームページURL : <http://www.pacific-metals.co.jp>

お問い合わせ先 : 総務部(IR担当)

TEL : 03-3201-6681

目 次

I 09.3期中間決算実績及び09.3期決算見通し

◆09.3期 中間決算実績	
1. 概要	3
2. ニッケル事業	4
3. 連結経常損益の分析(07.9実績対08.9実績)	5
◆09.3期 決算見通し	
1. 概要	6
2. ニッケル事業通期見通し	7
3. 連結経常損益の分析〔08.3実績対09.3予想(新)〕	8

II ニッケル需給について

◆ニッケル需給について	
1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移	10
2. 世界のステンレス生産とニッケル需給	11
3. ニッケル業界の動向について	12

III 経営課題への取組み

◆当面の成長のシナリオ	14
◆安定した鉱石調達への取組み	
1. ニッケル鉱石安定調達策	15
2. 湿式製錬への取組み	16

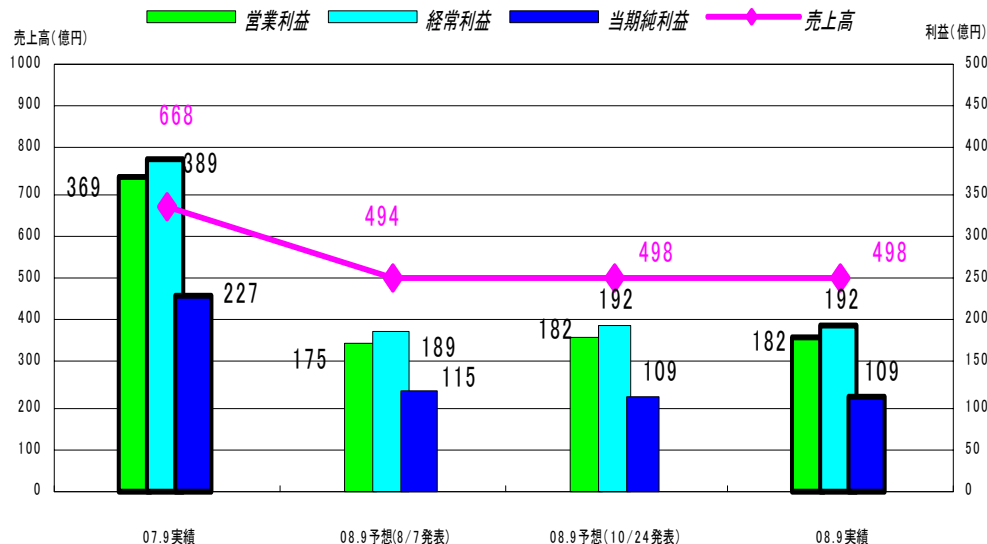


**I 09.3期中間決算実績
及び
09.3期決算見通し**

◆09.3期 中間決算実績

1.概要

～ 経常利益は前年同期比50.5%の減益になるも経常利益率は38.6%の高水準 ～



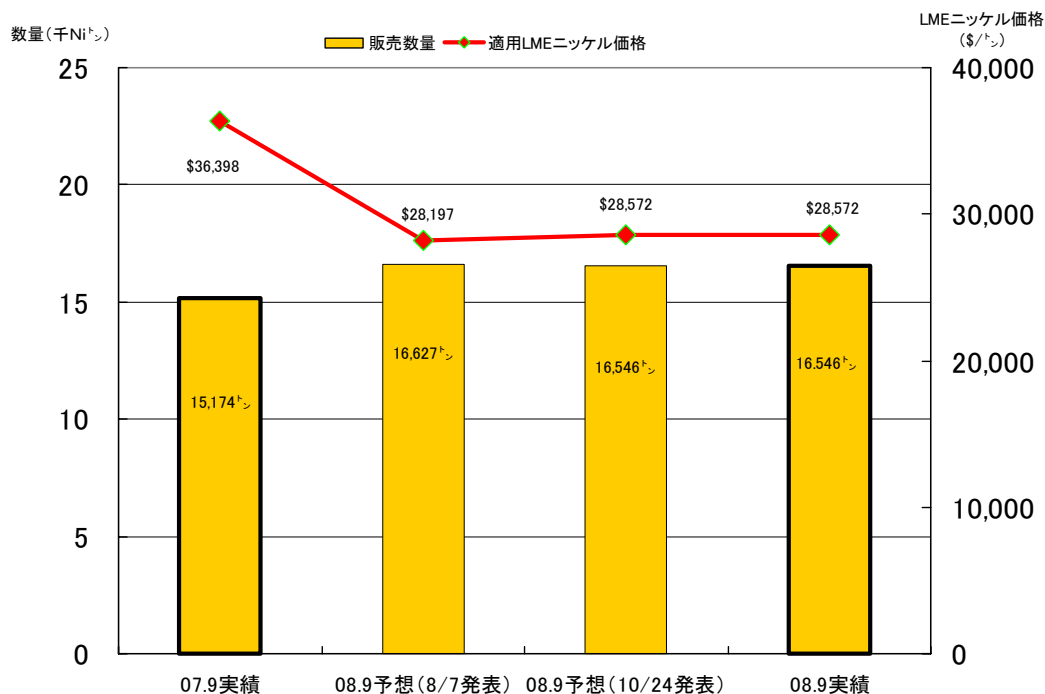
- ◇ ニッケル事業
ステンレス鋼需要の減速等の中で販売数量が微増するも、LMEニッケル価格の大幅下降により営業利益は前年同期比50.7%の減益。
- ◇ その他の事業
電力卸事業は原料高騰等による電力卸供給量調整により前年同期より減益。廃棄物リサイクル事業等の不振により損失。

金額単位:百万円	07.9実績		08.9予想(8/7発表)		08.9予想(10/24発表)		08.9実績			対前年同期比(%)	対8/7発表予想比(%)
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	構成比率		
売上高	66,772	—	49,443	—	49,816	—	49,816	—	100.0	△25.4	0.8
ニッケル事業	65,567	—	48,379	—	49,128	—	49,128	—	98.6	△25.1	1.6
その他の事業	1,292	—	1,131	—	775	—	775	—	1.6	△40.0	△31.5
連結に伴う調整	△86	—	△67	—	△87	—	△87	—	△0.2	—	—
営業利益	36,859	55.2	17,472	35.3	18,164	36.5	18,162	36.5	100.0	△50.7	4.0
ニッケル事業	37,079	55.6	17,537	36.3	18,303	37.3	18,303	37.3	100.8	△50.6	4.4
その他の事業	△230	△17.8	△84	△7.4	△151	△19.5	△151	△19.5	△0.8	—	—
連結に伴う調整	10	—	19	—	13	—	11	—	0.1	—	—
経常利益	38,868	58.2	18,865	38.2	19,240	38.6	19,244	38.6	—	△50.5	2.0
当期純利益	22,678	34.0	11,500	23.3	10,884	21.9	10,885	21.9	—	△52.0	△5.3
(設備投資額)	5,293	—	10,323	—	5,413	—	5,413	—	—	—	—
(減価償却費)	1,377	—	1,776	—	1,619	—	1,619	—	—	—	—

◆09.3期 中間決算実績

2. ニッケル事業

～販売数量微増も、適用LMEニッケル価格の大幅下降～



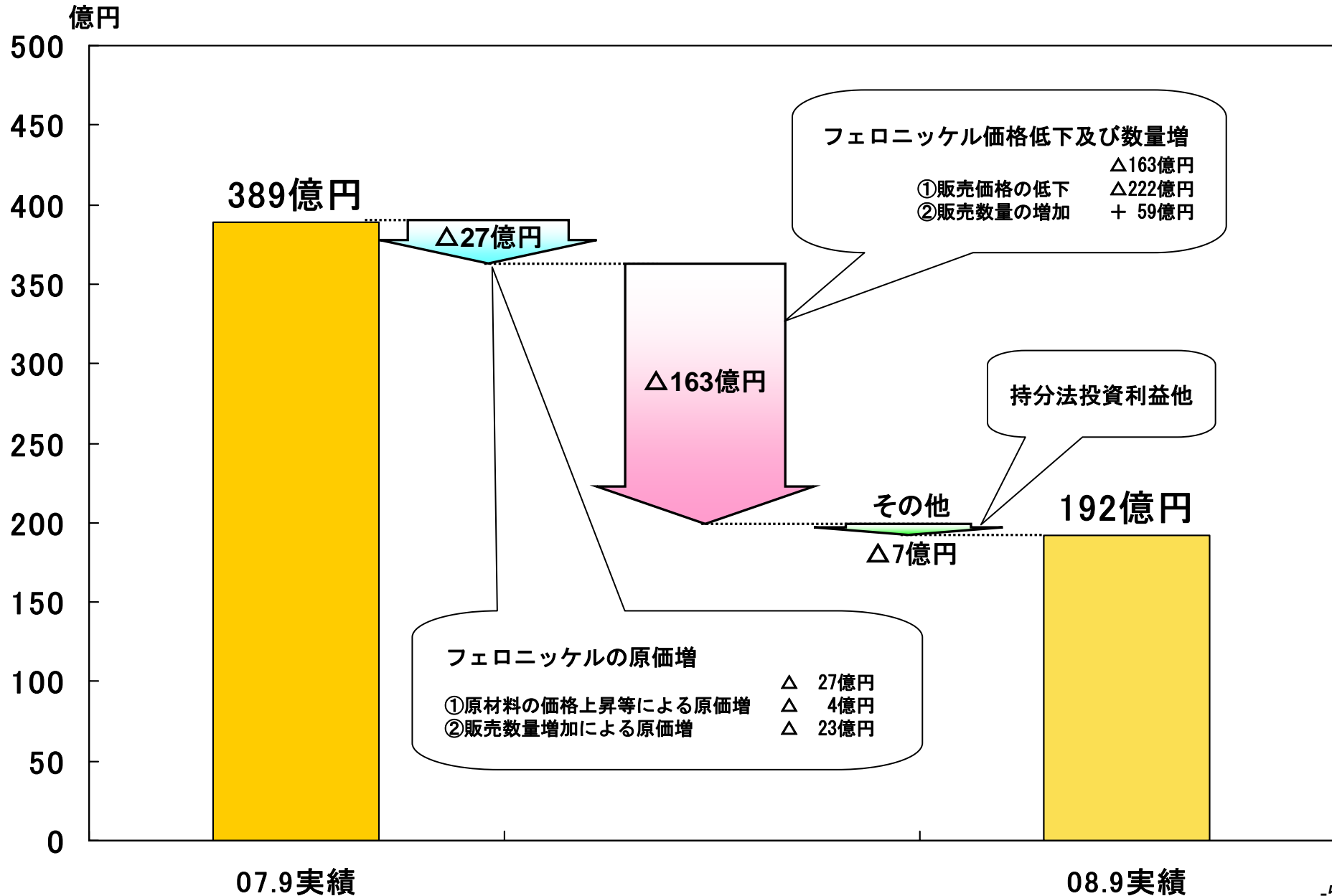
TOPICS

- ① 販売数量
ステンレス鋼業界の大幅な減産体制。輸出向けは増加するも、国内向けは大幅な減少。前年同期比9.0%増の16,546トン。
- ② 適用LMEニッケル価格
国際金属価格下降の中で、適用LMEニッケル価格も、前年同期比21.5%下降の28,572\$/トンとなり、販売価格もダウン。
- ③ 適用為替
為替は105.96円/\$と前年同期比14.04円/\$の円高となり、販売価格を押し下げ。

	07.9実績	08.9予想 (8/7発表)	08.9予想 (10/24発表)	08.9実績	対前年同期比(%)	対8/7発表 予想比(%)
販売数量(Niトン)	15,174	16,627	16,546	16,546	9.0	△0.5
適用LME(\$/トン)	36,398	28,197	28,572	28,572	△21.5	1.3
【適用LME(\$/lb)】	【16.51】	【12.79】	【12.96】	【12.96】	—	—
適用為替(円/\$)	120.00	105.01	105.96	105.96	—	—

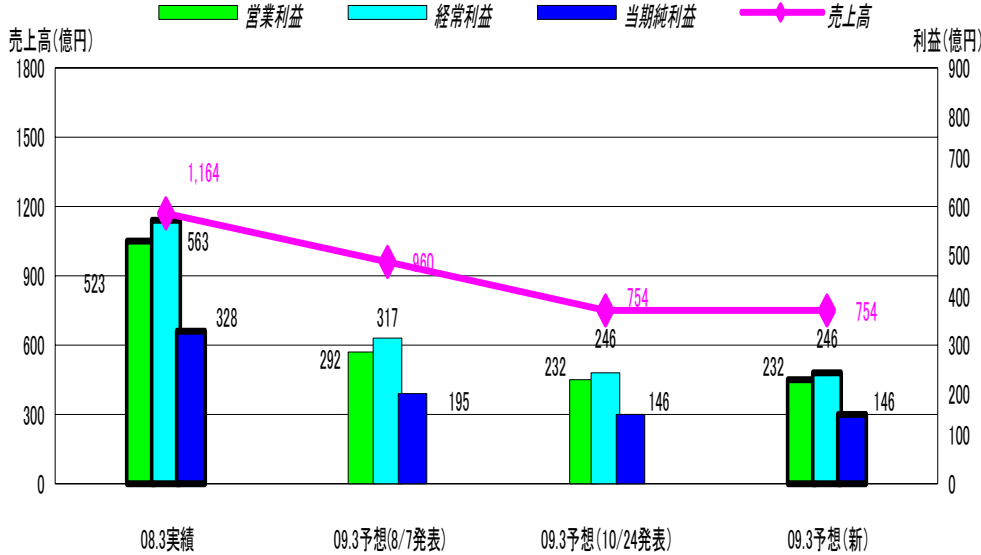
◆09.3期 中間決算実績

3.連結経常損益の分析〔07.9実績対08.9実績〕



1.概要

～減収減益予想の中で経常利益率は32.6%の高水準を見込む～



◇ ニッケル事業・・・世界的な経済情勢の悪化に伴うステンレス鋼業界の減産体制の継続及び国際金属価格市場の低迷により営業利益は前年同期比56.0%の減益予想。

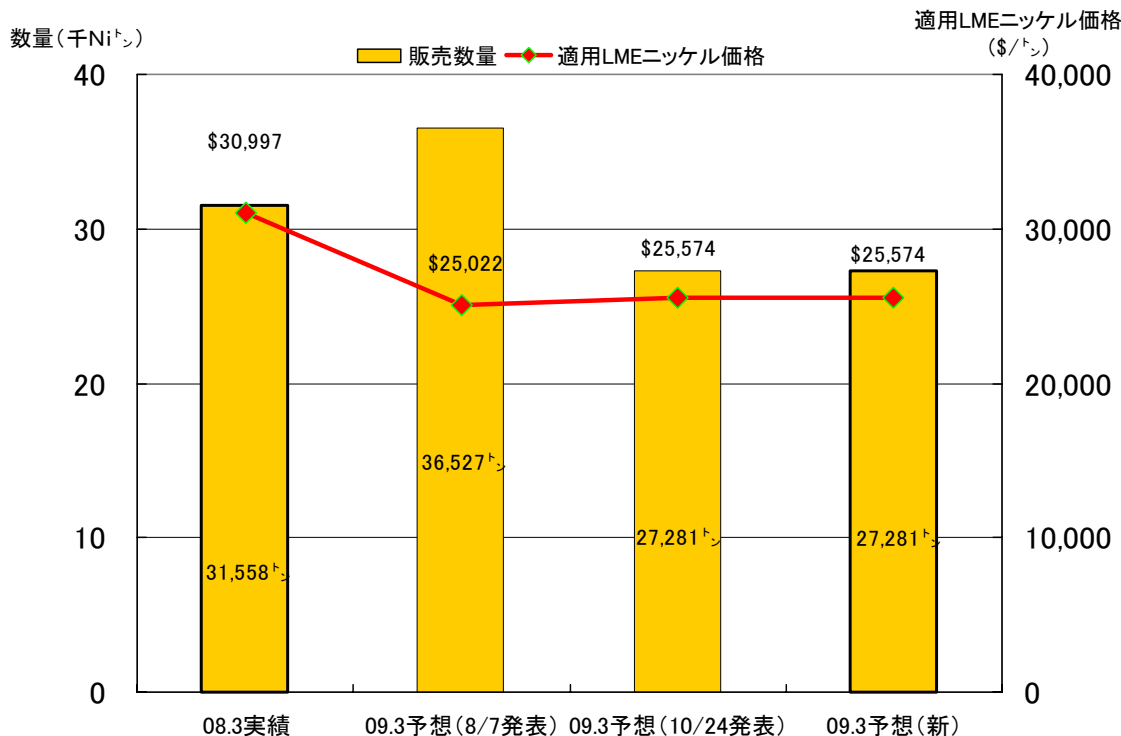
◇ その他の事業・・・電力卸事業は通期では順調に推移見込み、廃棄物リサイクル事業等の不振により損失予想。

金額単位:百万円	08.3実績		09.3予想(8/7発表)		09.3予想(10/24発表)		09.3予想(新)			対前期比(%)	対8/7発表予想比(%)
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	構成比率		
売上高	116,420	—	96,024	—	75,426	—	75,426	—	100.0	△35.2	△21.5
ニッケル事業	113,648	—	93,310	—	73,122	—	73,122	—	96.9	△35.7	△21.6
その他の事業	2,932	—	2,882	—	2,489	—	2,489	—	3.3	△15.1	△13.6
連結に伴う調整	△160	—	△168	—	△185	—	△185	—	△0.2	—	—
営業利益	52,251	44.9	29,216	30.4	23,173	30.7	23,173	30.7	100.0	△55.7	△20.7
ニッケル事業	52,468	46.2	29,302	31.4	23,125	31.6	23,125	31.6	99.8	△56.0	△21.1
その他の事業	△239	△8.2	△110	△3.8	△1	△0.0	△1	△0.0	△0.0	—	—
連結に伴う調整	22	—	24	—	49	—	49	—	0.2	—	—
経常利益	56,315	48.4	31,652	33.0	24,615	32.6	24,615	32.6	32.6	△56.3	△22.2
当期純利益	32,804	28.2	19,475	20.3	14,599	19.4	14,599	19.4	19.4	△55.5	△25.0
(設備投資額)	12,046	—	18,943	—	18,420	—	18,420	—	—	—	—
(減価償却費)	2,676	—	3,994	—	3,506	—	3,506	—	—	—	—

◆09.3期 決算見通し

2.ニッケル事業通期見通し

～中期的にはニッケル需要の回復を見込むも、当期は販売数量の減少・適用LMEニッケル価格の下降～



TOPICS

①販売数量
ステンレス鋼需要の減速等により、フェロニッケル販売数量の低迷が予想され、前年同期比13.6%減の27,281トンを見込み。

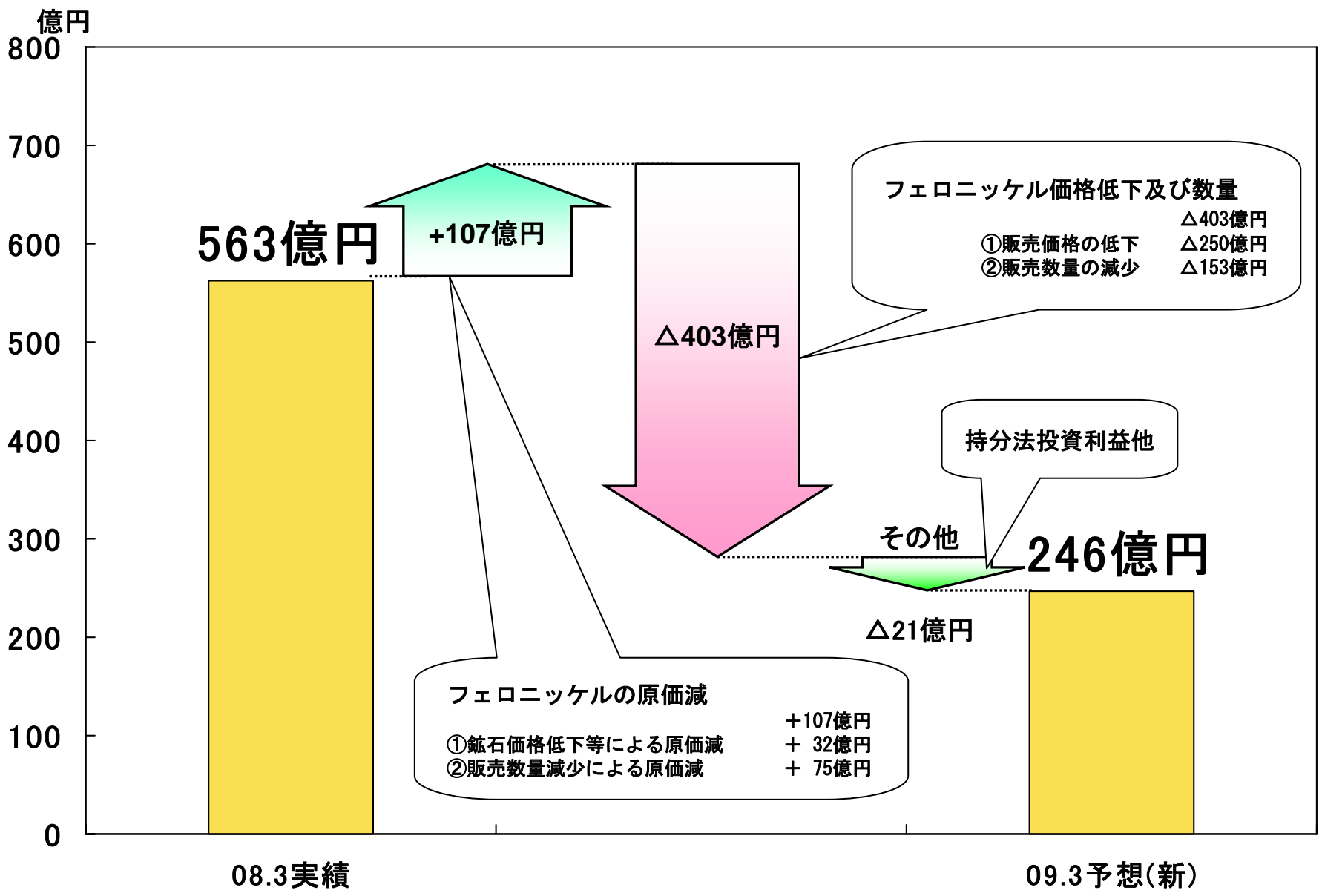
②適用LMEニッケル価格
国際金属価格下降の中で、適用LMEニッケル価格も、前年同期比17.5%下降の25,574\$/トンとなり、販売価格もダウンの見込み。

③適用為替
為替は105.84円/\$と前年同期比9.07円/\$の円高となり、販売価格を押し下げる見込み。

	08.3実績			09.3予想 (8/7発表)	09.3予想 (10/24発表)	09.3予想(新)			対前期比 (%)	対8/7発表 予想比 (%)
	上期	下期	通期	通期	通期	上期	下期	通期	通期	通期
販売数量 (Niトン)	15,174	16,384	31,558	36,527	27,281	16,546	10,735	27,281	△13.6	△25.3
適用LME (\$/トン)	36,398	27,159	30,997	25,022	25,574	28,572	20,966	25,574	△17.5	2.2
【適用LME (\$/lb)】	【16.51】	【12.32】	【14.06】	【11.35】	【11.60】	【12.96】	【9.51】	【11.60】	—	—
適用為替 (円/\$)	120.00	110.68	114.91	102.70	105.84	105.96	105.66	105.84	—	—

◆09.3期 決算見通し

3.連結経常損益の分析〔08.3実績対09.3予想(新)〕

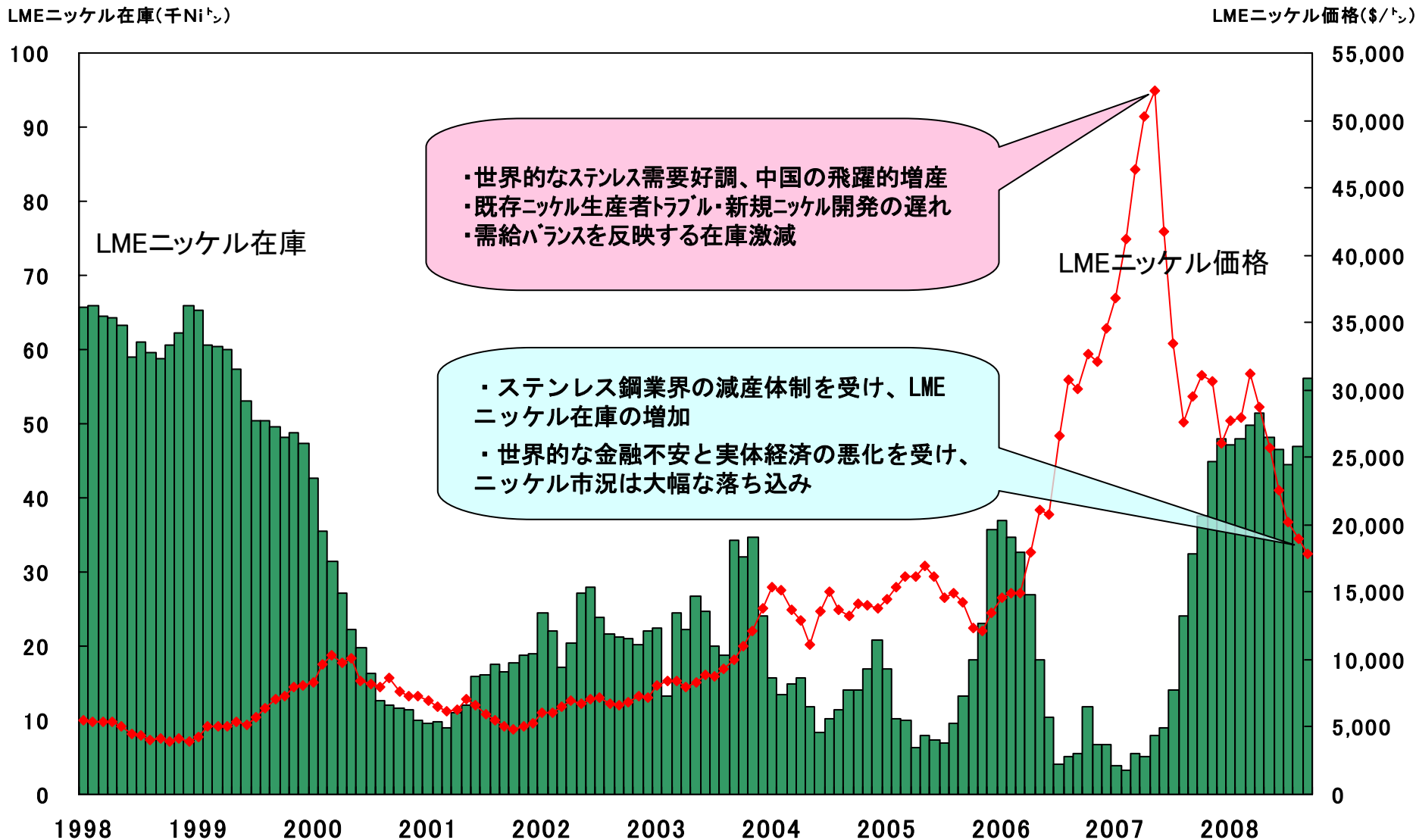




Ⅱ. ニッケル需給について

◆ニッケル需給について

1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移(1998年～2008年)

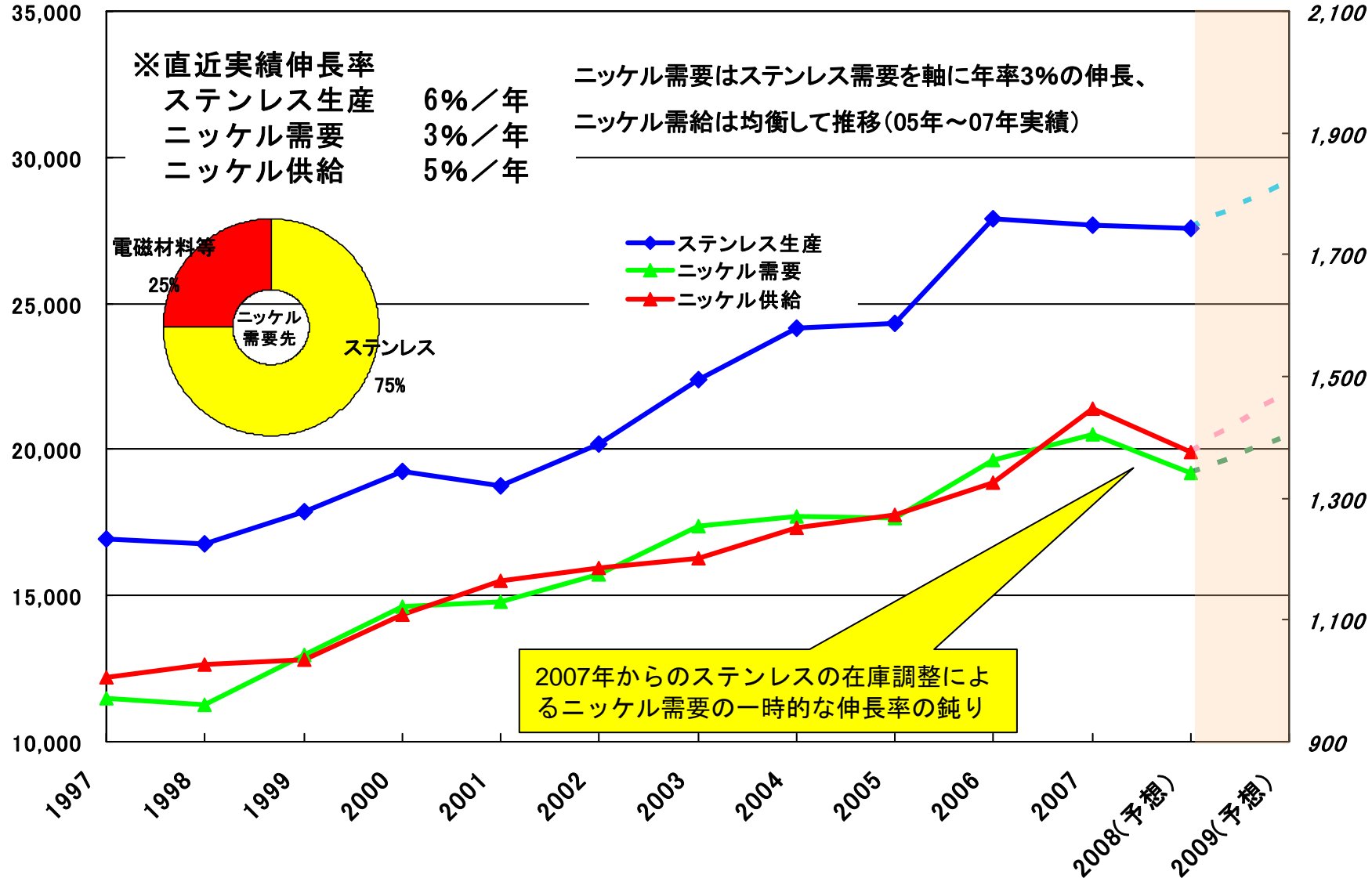


◆ニッケル需給について

2. 世界のステンレス生産とニッケル需給

ステンレス生産(千ト)

ニッケル需給(千Niト)



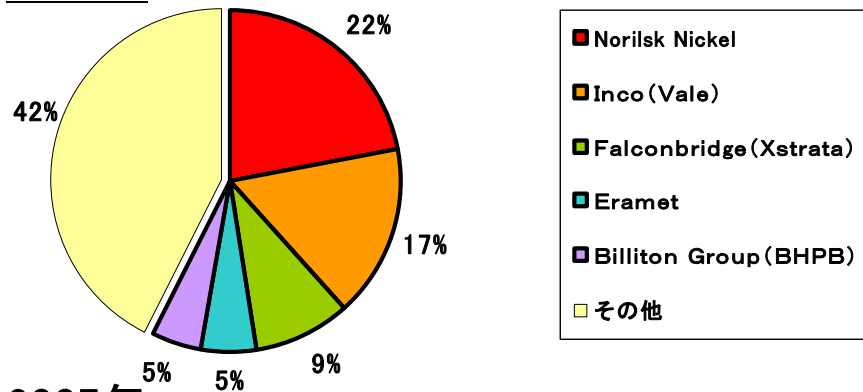
◆ニッケル需給について

3. ニッケル業界の動向について

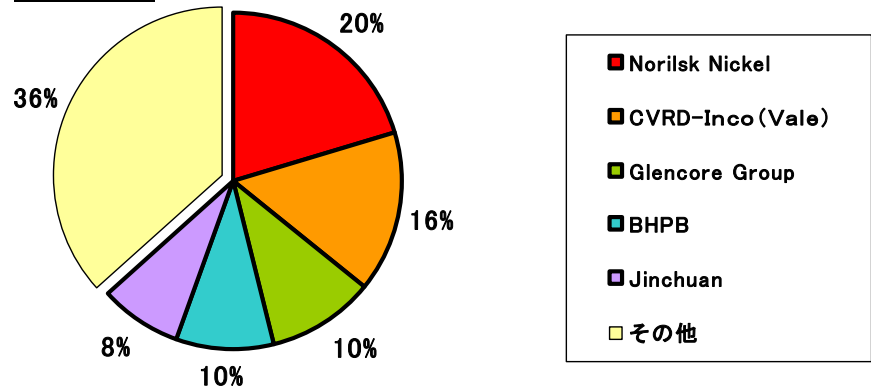
ニッケル生産者ランキング

ニッケル業界の再編による寡占化が進むことで、需給動向を勘案した生産調整が容易になり、LMEニッケル価格の安定化が進むと考える

1997年



2007年



上位5社シェア

1997年

58%



2007年

64%

ニッケル生産プロジェクトの状況

A. 新規プロジェクトの見直し状況

プロジェクト名	生産能力	時期	
		時期	状況
VALE INCO/VERMELHO	46,000ト	2012年上期	操業予定→先送り
VALE INCO/ONCA PUMA	58,000ト	2009年1Q	操業予定→先送り 立上げ時期延長
SHERRITT/AMBATOBY	60,000ト	2010年	開発費の見直し

B. ニッケル生産者の操業停止状況

生産者名	生産能力	時期	期間	08年見込
XSTRATA/FALCONDO	30,000ト	2008年8月	4ヶ月間	19,000ト
NORILSK/CAWSE	8,500ト	2008年10月	未定	5,500ト
IMH/UFALEY NICKEL	17,000ト	2008年10月	未定	11,500ト

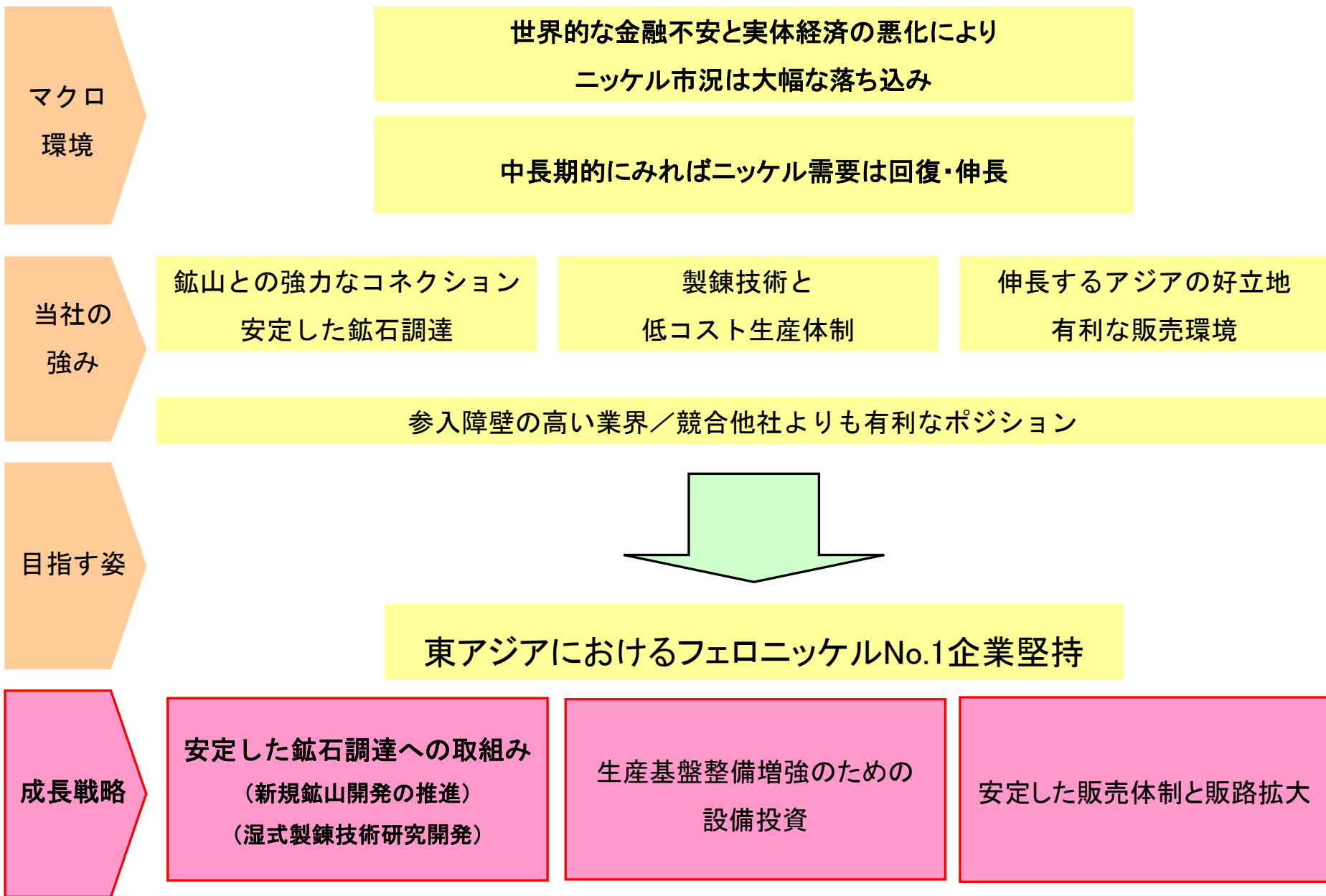
C. ニッケル生産者の減産状況

生産者名	生産能力	時期	期間	08年見込
JINCHUAN	120,000ト	2008年9月	未定	100,000ト
VALE INCO/PT INCO	78,000ト	2008年10月	未定	74,000ト
ERAMET/SLN	60,000ト	2008年11月	未定	52,000ト



Ⅲ 経営課題への取組み

◆当面の成長のシナリオ



◆安定した鉱石調達への取組み

1. ニッケル鉱石安定調達策

<フィリピン・ジャカルタ事務所開設>

- ①フィリピン事務所 2008年 4月
- ②ジャカルタ事務所 2008年10月

①長期購入契約締結（期間は5年から10年）

<フィリピン>

リオ・チバ・ニッケル社 08年 1月～12年12月（5年間）
タガニート社 01年 1月～10年12月（10年間）

<インドネシア>

アンタム社 07年 6月～14年 5月（7年間）

<ニューカレドニア>

モンタニア社 06年 4月～16年 3月（10年間）

②鉱山開発及び操業に関する技術協力

<フィリピン>

リオ・チバ・ニッケル社とは、既に探鉱・開発対象となる新たな鉱区を決定済み。リオ・チバ・ニッケル社およびタガニート社等と共同で進行中。

<インドネシア>

アンタム社が鉱山開発を行い、開発後の安定した鉱山操業のための技術協力を実施。

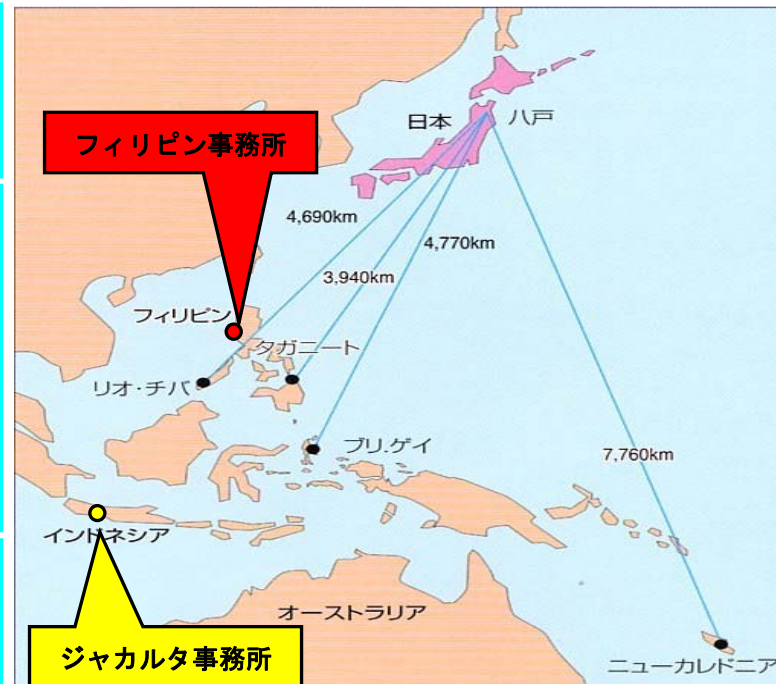
③鉱山会社への出資

<フィリピン>

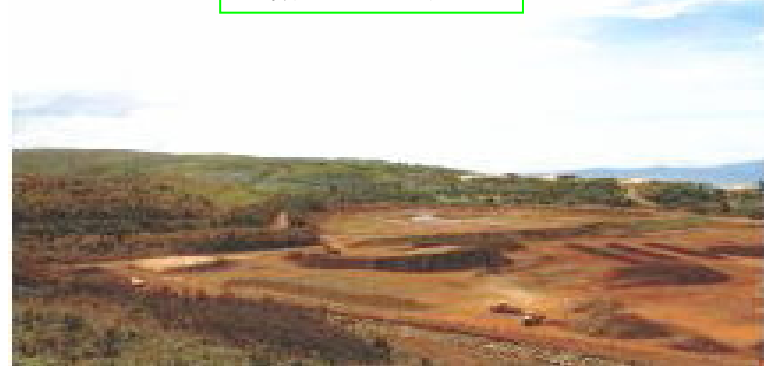
リオ・チバ・ニッケル社 36%
タガニート社 33.5%

<インドネシア>

アンタム社 若干の出資
 （インドネシア政府65%、その他一般35%）



酸化ニッケル鉱山



2010年までにニッケル鉱山開発123億円

◆安定した鉱石調達への取組み

2.湿式製錬への取組み

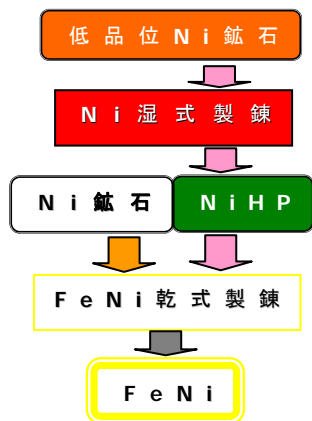
低品位鉱石の活用プロジェクトの推進

湿式製錬は化学処理によるニッケルの濃縮・抽出方法。

現地山元で湿式製錬し、品位を上げた中間産品を八戸で乾式製錬することにより低品位鉱石を活用する。

八戸製造所にパイロットプラント建設等88億円

位置付け

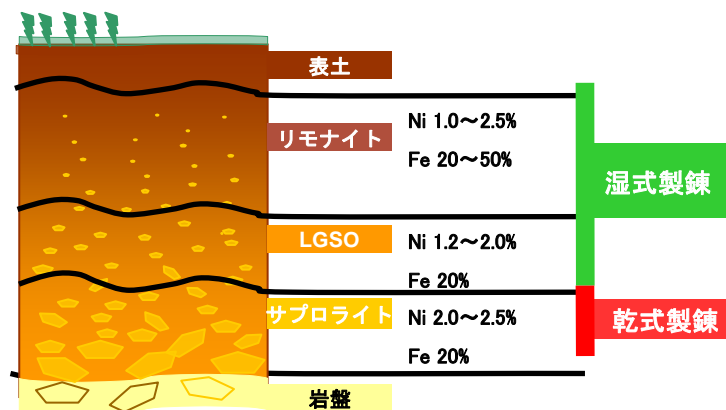


乾式製錬では使用できない鉱石

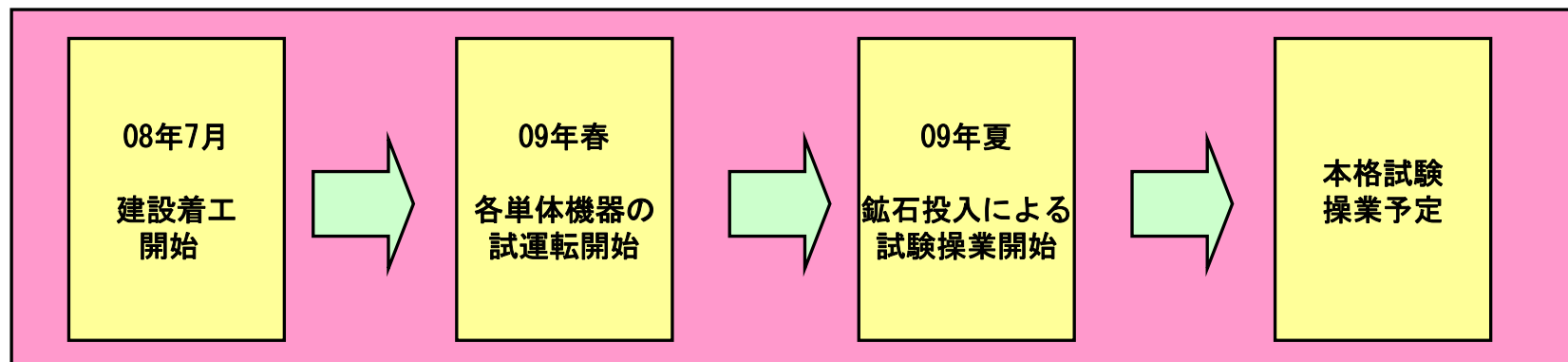
主成分はNi(OH)₂でありスラグ分をほとんど含まない

NiHP（水酸化物）を原料の一部として使用することにより使用電力、スラグ、廃熱量を減らすことが可能。またはこれまで使えなかった低品位原料の使用が可能となり、さらにFeNiの増産が可能

酸化ニッケル鉱石と製錬法



パイロットプラント進捗状況



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。